

令和5年度 子どもに関わる支援ボランティアのつどい・研修会

本研修会は、地域学校協働活動に関わる支援サポーターやボランティア、行政職員、及び、これからボランティアをしたいと考えている学生等を対象に、実践発表や講話を通して、地域学校協働活動でのサポーターの役割や効果を知り、子ども達とのよりよい関わり方についての理解を深め、今後の取組に向けた実践意欲の向上を図る目的で実施しました。管内の「地域学校協働活動事業」を活用している事業の支援サポーターをはじめとする子どもに関わる方々28名が参加し、一緒に学びを深めました。

研修1 <実践発表>

「学校支援ボランティアの活動について」

桂川町教育委員会 学校支援コーディネーター兼指導主事 栗原 聡 氏

栗原氏による実践発表では、地域学校協働活動でのサポーターの役割や効果について発表していただきました。

実践の中では、支援ボランティアの役割として、多くの支援ボランティアが技術指導（地域学習・しめ縄づくりなど）や学習補助等での関わりを通して、子どもの生きる力の育成や地域の教育力の向上を図っていることについてお話をしていただきました。

桂川町の実践から、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の必要性を感じ、地域と学校が連携・協働することを意識して、今後の取組に活かしていこうとする意欲を高めることができたと考えます。



研修2 <講話>

「子ども達との関わりについて」

福岡県立大学人間社会学部 助教 二見 妙子 氏

二見氏による講話では、「子ども達との関わりについて」と題し、子どもの人権やインクルーシブ教育の基本的な考え方、発達段階を意識した子ども達との関わり方、そして、子ども一人ひとりの声を聞くことの大切さについて御教示いただきました。

講話を通して、多くの地域サポーターが子ども一人ひとりのことを理解し合い、関わりを持ち続けながら子ども達を育てることの素晴らしさについて、理解を深めることができました。講話後の振り返りシートには、「子ども達の声をきいて実践に生かしていきたい」という感想が多数出されました。このことから、よりよい子ども達との関わり方を意識して取り組もうとする実践意欲を高めることができました。



研修を終えて

研修後のアンケートには、「地域・学校・子どもに関わっている方の連携により、子どもは育っていくことを学んだ」「子ども達との関わりの中で、子ども達の意見や考えを大切にしていき、安心できる居場所作りは、私たちが作っていききたい」等の感想が多くありました。

本研修会を通して学んだことや、再確認できたことを、今後の実践に生かしていただくことで、「学校を核とした地域づくり」が推進されることを願っております。

